

ラジオママネット～ママトーク

第4回放送の概要（2017年7月22日）

（トークメンバー）

あっちゃん：50代、2人の子どもは成人しています。ママネットでは、はじめてのおけいこ、算数教室の指導員です。

えみちゃん：40代、5年生（女）、1年生（男）、1歳の子どもがいます。食育指導をしています。

さおりん：30代、6歳、4歳の2人の子供。管理栄養士の資格があり、ママネットではキッズクッキング、ママのためのランチ教室をしています。

じゅんちゃん：40代、3歳と0歳の女子。会社員、ママネットでは「婦人神戸」で2カ月に1回世界の教育事情のコラムを書いています。

あきねえ：40代、中一、小4、1歳。ママネットでは子育て支援関係の企画運営をしています。

まきちゃん：40歳、小6（女）、小4（男）、小1（女）。ママネットは婦人会館HPの運営管理、神戸ママネット通信の発行、ワーキングラボのメンバー、子どもパソコンクラブの講師をしています。

本日のテーマは、「女性が輝く社会とは（2）～お母さんという役割～」です。女の子だから、お母さんだからこうしなければならないという固定観念が、まだまだ強く残っている世の中で、女性の働き手としてのニーズも高まっている現在、4月の第1回放送では女性は学生時代、就職、結婚、子育て、子供が自立した後という目まぐるしいステージや、価値感の変化に対応しているんだということを共通認識できました。そのような中でも満足感を得て生きていくためには、何が大事なのかを深くトークしたいと思います。

- ・お母さんという役割について、子育てをしてお母さんしか出来ないこと、自分たちのお母さんが当たり前に来ていたので、これはお母さんとやっていかないといけないこととして、葛藤がありながらも、外でも働きたいとか、働く以外に子供がいながらもこういうことをやりたいとか、そのような中で何か辛抱したりしながらも、上手に考えながら取り組んでいると思う。そのような中でお母さん（女性）しかできないことは、出産、授乳と思うが。
- ・女性にしか出来ないのはそれだけである。出産しても授乳が出来ない人もいる。その場合ミルクをあげるのはお婆ちゃんも出来る。赤ちゃんは夜中に頻りに授乳が必要であるが、お父さんが起きてミルクを与えるといっても、お母さんはお乳がでるし、お父さんも会社があるのでしんどいだろうと思う。お母さんが昼間働いていない場合は、やはりお母さんが授乳することになる。
- ・女性にしか出来ないのは出産だけと思う。掃除、洗濯、料理、子供をあやすのもお父さんは出来る。しかし現実にはあやす、洗濯、子供の迎えなどはお母さんの仕事でしょになっているのはどういうことからきているのか。昔は男子が働き女子が家を守るという社会であったが、今は社会が変わってきて、男性だけの収入ではやっていけない社会に変化してきている。その結果女性、母親の役割が変わってきている。昔仕事もなく、しかし生きていくのに必要なものがあれば、出産以外は男女平等であったのではないか。仕事、お金など生活がかかってくると、役割分担で女性のほうがしんどい部分が多くなってきたと思う。

- 親世代は母も専業主婦で、自分は0歳児のわが子を保育園に預けていたら、こんな小さい頃から預けるのは信じられないと言われた。時代で子育ての役割分担も変わってきたと思う。子供が病気したときは、父親より母親のやさしさなど、役割が大きいのではないかと。子供の迎えにしても、父親が会社で大事なポジションにいると、会議を抜け出し急に帰るのは日本社会では難しいと思う。北欧などは女性も男性と同じように働き、平等であるが、日本はそこまでいけてないので、急な対応などは女性が犠牲になっている。最近はお父さんとお母さんの役割分担をしたと思える送迎も増え、当たり前前の風景にはなりつつあるように感じる。
- えみちゃんは保育園に預けず、幼稚園まで地域で一緒に遊んだりしているが、意識してやってきたのかについて、子供とられるのは小さい時だけであるので、子供となるべく一緒に過ごしたいという思いがあり、幼稚園も2年間でいいと思っており、自分が犠牲になるとは思わず、子供中心で過した。子供にとって何がいいかを考え、母親と過した楽しい思い出づくりが大事と考えた。
- まきちゃんもえみちゃんに近い考えで、子供にとってお母さんと過ごす時間が大事と考えてきた。それぞれのスタイルがあり、時代的に保育所に預けて働くのもありと思う。まきちゃんが保育所に預けなかったのは、日中過ごす時間がわが子と自分では、1対1で子供の思いに答えられる。集団の中では一人の先生と多数の子供になり、子供の我儘に殆ど答えられない。幼稚園に入る前に、わが子の我儘に答えられる存在でありたいと思ったからである。
- それは自分には痛い話。保育園では沢山の友達が出来、協調性が養われ、行事も沢山あり子供は楽しんだ。しかし帰ってきてからの生活がギリギリだったので、ご飯を作っている時に本を読んでと言われても後回しになり、寝る前には応えるようにしているが、遊んでといった我儘には答えられていなかった。預けずに子供と向き合ってきたまきちゃんも、そのようなことはあった。
- 一昔前に子育てをしたあっちゃんの経験から、親に育ててもらったと同じことしか子育てをすることは出来なかった。母親も自分も専業主婦で、学校から帰ってきた時はお帰りと言って迎えてあげることが、親からしてもらったことで、何も思わずやってきた。若い世代のお母さんたちは、仕事も大事で（今はあっちゃんももっと早くから仕事をしていた方がよかったと思う）、それは主人の家庭環境に大きく左右されると思う。主人の両親が仕事で忙しくしている家庭で育っていれば、よく理解してもらえる。専業主婦の母親に育てられた主人は、お母さんは家にいるものという思いが強いので、夫婦がかみ合わない。あっちゃんも子供が大きくなってから仕事を始めたが、今は働かない主婦はいないので、お前も働けと言ったくせに、15時から20時まで働いているあっちゃんに、夕飯を作って出かけているにも関わらず、ご飯を暖めてよそうのが嫌で、仕事をやめろという。家政婦と思っている。専業主婦に全てをやってもらっている家庭に育つと、そのようになる。結婚する前はそのような家庭であることはわからない。
- 今までの話は、個々には違うと思う。子供とずっと一緒にいるとしんどくなる（2人の男の子）。離れていたほうが、そのときを大事にしようと思うので、いいお母さんでいられる。保育園に預ける年齢は早くなかった（4歳）。子供が帰ってきた時の状況は一緒に、お母さんは仕事をして帰ってくると家事をするが、それは子供たちのためでもあるので子どもは理解する、理解させることが大事。子どものわがまま全てに対し、大人の時間をさけない。大人が全てを受け入れると思ったら大間違い。大人には大人の時間があるのでそこまでは待

て、その後は付き合いと子供に言う。母親も自分のしたいことをすることで、親子がよい関係を続けられると考えた。

- 専業主婦の母親に育てられた子供（男子）は、自分が台所に立つこともなく、洗濯物はたたまれてタンス入っているのが当たり前、靴下どこやと平気で言う、脱ぎっぱなしにして洗っというてと平気で言う。義理の父親は母親が亡くなると、何も出来ないので大変と思う。
- 限られた時間でしたが、それぞれが同じ時代を生きながら、多様な価値観で自分と周りの人たちの心が満たされるように、精一杯過していることがわかりました。これからも助け合っていきましょう。今後もママトークでは掘り下げていきます。

以上